

金沢市立栗崎小学校

〔はじめに〕

本校は、金沢市の北部に位置し、1872年に開校し、2012年度に140周年を迎えた。

学校は海岸にも近く、砂丘地に畑、住宅地が広がっている。主な産業は砂丘地でのサツマイモやスイカなどの栽培で、特に、サツマイモは「五郎島金時」という伝統的加賀野菜として有名である。地域社会や保護者は、学校教育への理解があり、PTA活動にサツマイモ栽培や大根栽培など地域の特徴を生かした農業体験的な活動を取り入れている。

2011年度からユネスコ・スクールへ加盟し、総合的な学習や生活科を中心に、さまざまな地域学習を土台に「栗崎に生きる」というテーマを掲げESDに取り組んでいる。

栗崎に生きる

～栗崎のひと・もの・ことを発信しよう～

1 ユネスコスクールとしての取組

①学校全体の概要

栗崎の地域の特徴（砂丘地・五郎島金時・スイカなどの農産物、獅子舞・奴などの伝統文化、障害者や高齢者対象の福祉施設）を素材とし、地域の「ひと・もの・こと」について調べたことを、自分の言葉で表現し、友達と話し合いながら新たな問いをたてる。さらに自らたてた問いについて、資料で調べたり、地域で生き抜いてこられた方たちの経験を知りながら追究したり、自分が地域でどのように生きていくべきかについて考えたりすることを目的としている。

加盟の翌年から3年間、「ESD連携推進会議」を実施し、地域の方にも本校の取組への理解と協力を求めた。その間に地域との連携の基礎が築かれたことから、昨年度からは、各学年ごとに地域の関係者と連絡を取りながら学習を進めている。

毎年、学習成果を保護者や地域の方に発信する「ESD発表会」を、1、2年生は12月に、3～6年生は1月に行っている。

②各学年の取組

1年 栗崎となかよし	} 生活科中心の取組
2年 栗崎をたんけん	
3年 栗崎のよさを見つけよう	
4年 だれもが住みよい町づくり	
5年 砂とともに生きる町・栗崎	
6年 人とのつながりの中で生きる	



1年生は、〈栗崎となかよし〉をテーマに、生活科単元〈むかしあそびをしよう〉を中心に学習を進めた。実際に道具を使って昔遊びを体験し、その後、地域の名人さんに教えてもらうとさらに意欲が高まった。「年長さんをむかえる会」では、「年長さんにわかりやすく教える」というめあてをたて、相手意識・目的意識を明確にして取り組んだ。ESD発表会では、協力してくださった昔遊びの名人さんや、保護者に向けて、遊び方や上手にするコツを紹介し、上達した昔遊びの技を披露することができた。相手に伝わるように、大きな声ではっきり、ゆっくりと話そうとしている姿がみられた。

2年生は、〈栗崎をたんけん〉をテーマに、社会福祉施設「夕凧苑」を訪問し、お年寄りと交流した。お年寄りに喜んでもらえるように、折り紙・あやとり・すごろく・トランプ・お手玉・クイズ・輪投げなどの遊びを考えて準備し、自己紹介・司会・かたたたき・ゲームの説明の練習をグループごとに行った。当日は、練習の成果を生かし楽しく交流できた。ESD発表会では、交流の様子・お年寄りの気持ち・自分たちの感想などを、絵や表・実物・クイズなどを使って発表した。保護者の方々に伝わるように、暗記して、相手を意識して説明したり、大きな声で伝えたりするなどの姿が多く見受けられた。

3年生は、〈粟崎のよさを見つけよう〉をテーマに、まず、地元の特産である「五郎島金時」について全員で調べ学習を行った。その際、五郎島金時の生産者に来ていただき、サツマイモ作りに対する思いや願いを聞くことで、さらに理解を深めることができた。その後、粟崎の自慢できる場所・人・ものや、昔から伝えられている行事（獅子舞・奴行列）など、テーマごとにグループに分かれ詳しく調べた。金沢学びタイムでは、獅子舞・奴行列保存会の方に実演してもらうことで、次第に粟崎のよさについて学びを深めることができた。そして、分かったことや深まったことをグループごとに新聞にまとめ、ESD発表会で発信することができた。

4年生は、〈だれもが住みよい町づくり〉をテーマに、バリアフリーの学習に取り組んだ。点字学習器・アイマスク・車椅子・お年寄り体験用の器具等を使って、様々な立場を体験し、自分たちの町は体の不自由な人やお年寄りにとって住みよい町かを調べる学習に取り組んだ。その後、視覚や聴覚に障害のある方をお迎えし、生活の上での苦労や工夫について話を聞いた。そして、調べた内容や自分たちの考えを壁新聞にまとめ、保護者・地域の方に発信した。

5年生は、〈砂とともに生きる町粟崎〉をテーマに取り組み、地域の「JA粟五青壮年部」の協力を得ながら、まず小玉スイカの栽培に取り組んだ。児童は、当番を決めて水やりをしたり、定期的に雑草を抜いたり、観察記録をつけたりした。今年度は天候に恵まれ、例年より順調に生育した。子どもたちは、収穫の際に、自分たちが育てたスイカの糖度が、出荷の基準を満たすほど甘く育っていたことが分かり、とても満足げであった。2学期からは加賀野菜のことを学習した。加賀野菜の特徴や歴史・調理の仕方などについて調べた。それと並行して「源助大根」の栽培も行った。こちらも気候に恵まれ、立派な源助大根をたくさん収穫することができた。調べた加賀野菜については、プレゼンテーションにまとめ、ESD発表会で地域の方や保護者の方に発信することができた。

6年生は、〈人とのつながりの中で生きる〉をテーマに、6年間の総まとめとして、地域である粟崎から離れ、より発展的に広い範囲に目を向け、金沢について理解を深める学習を行った。5月から7月は、「金沢百万石祭り」について調べた。実際に祭りを見た児童の感想を聞いたり、資料やインターネットで調べたりして、各自が新聞にまとめる活動をした。これが金沢の伝統ある祭りであり、これからも続いてほしいという思いをもった児童が多かった。2学期からは「金沢のよさを発信しよう」というテーマで、金沢の名所や伝統、偉人についての追究が始まった。10月には、実際に、金沢城や兼六園など金沢の歴史を感じられる場所や伝統産業工芸館、ふるさと偉人館などの見学をするとともに、金箔貼りの体験活動も行った。金沢には、これからも守っていくべきものや、伝統がまだまだあるということを見学は実感できたようだった。そして、児童一人一人が、自分の追究したことをプレゼンテーションにまとめ、ESD発表会で保護者に発信した。調べてみて改めて知ったことも多く、「なるほど」と感心しながら調べたり、発表したりすることができた。

2 成果と課題

成果

- ・地域素材をテーマにした学習を積み重ねてきたことで、地域への理解と愛着が深まった。地域の方の協力を得ることで地域とのつながりが、より深まった。
- ・どの学年でも、体験を通じた学習を展開することで、意欲的に取り組めた。
- ・ESDカレンダーで、教科・道徳・総合的な学習の時間の相互関連が図られ、横断的な学習を行えた。
- ・毎年継続してESD発表会を開催することで、「伝える」という意識が定着し、伝える方法も積み重ねられてきた。
- ・本校の児童に身に付けてほしいと願う、ESDの視点の「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する力」を身に付けられる学習場面を想定し、具体的な姿を事前にイメージしておいたことで、教師もその姿に近づけるようにかかわれた。

課題

- ・ESDと教科・その他教育活動との関連を図りながら、さらに表現力を伸ばす。
- ・学習過程の様々な段階で、さらに「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する力」を育てていく。
- ・学習過程の中で、より自分の考えを深め、より分かりやすく発信できるようにする。